

## 研究活動報告

### 北京+30国際フォーラム

1995年に開催された北京女性会議の30周年を記念し、中華全国婦女連合会婦女研究所、国連人口基金（UNFPA）中国事務所、中国中央民族大学が主催する「北京+30国際フォーラム：人口大変動の中のジェンダー平等」と題する国際会議が、中国・北京にある中央民族大学にて、2025年8月30～31日に開催され、筆者は「少子高齢化の若年・高齢女性の変容する役割」と題する講演を行った。会議には、主催者及び中国各地の研究者が参加し、米国、フランスの専門家も報告を行った。

（林 玲子 記）

### 日本家族社会学会第35回大会

日本家族社会学会第35回大会は、2025年9月6日（土）・7日（日）の2日間にわたり、金城学院大学（名古屋市）にて開催された。

国立社会保障・人口問題研究所からは、以下の所員が報告を行った。

- ・余田翔平（東京大学）・岩澤美帆「夫婦出生力の長期的趨勢一期間合計結婚出生率によるアプローチ」
- ・鈴木貴士・甲斐康輝（パリ第一大学・院）、岩澤美帆、尾崎幸謙（筑波大学）「今日の結婚に求められているものは何か—職業情報と結婚の関係からの接近」
- ・斉藤知洋「夫婦ダイアド・データからみる父親の家事・育児行動の諸相」
- ・小山泰代「ジェンダーとセクシュアリティの現在地—量的調査から見る変化と不変化」

会場では、家族社会学分野における多様な研究が報告され、質的・量的両面から活発な議論が展開された。筆者らが発表した「結婚」セッションでは、ライフヒストリー分析、新聞記事の内容分析、筆者らの大規模公的統計を用いた計量分析など、異なる手法を用いた報告が並び、家族研究の広がりと深化を実感する機会となった。筆者らの報告に対しては、山田昌弘会長からも貴重なコメントを頂戴し、有意義な議論を行うことができた。

また、当研究所が実施する「全国家庭動向調査」の調査票情報を用いた、柳下実（佛教大学）「誰が家事関連機器を利用するのか？—全国家庭動向調査（2008, 2018）の分析—」の報告もあり、同調査への関心と認知の高まりがうかがえた。

（鈴木貴士 記）

### 経済統計学会2025年度（第69回）全国研究大会

経済統計学会2025年度（第69回）全国研究大会は、9/12（金）～9/13（土）に中央大学多摩キャンパス（東京都八王子市）において開催された。様々な公的統計およびその他の統計も活用し、現代における社会課題の解決を試みる応用的かつ意欲的な研究が多数見受けられた。一方で全体の報告を通じて、調査環境の悪化は統計の作成のみならずEBPM（証拠に基づく政策立案）を困難なものとしていることもうかがわれ、改めて大きな課題であることを実感した。

筆者は、「令和7年国勢調査の実施に向けて」というセッションにおいて「人口移動集計と地域別将来人口推計の観点からみた令和7年国勢調査の展望」と題した報告を行った。国の最も重要な統計調査といえる国勢調査も調査環境の悪化の影響を強く受けており、不詳補完を行ったとしても、不詳が増加すれば統計が実態から乖離する可能性は高くなる。研究者としては、各種統計や調査を活用して有効な政策立案につながる研究成果を産み出し、それらの重要性を訴え続けていくことが求められよう。

(小池司朗 記)

## ASEAN 活動的な高齢化とイノベーションセンター(ACAI)

ASEAN 活動的な高齢化とイノベーションセンター (ACAI) は、2020年 ASEAN 加盟国により合意され設立された、高齢化対策の知識・情報を共有し国際連携を進めるための国際機関である。2024年より活動が本格化し、今年2月に5か年戦略計画 (2025-2029) が策定され、その具体案である活動計画が9月にタイ・バンコクおよびラヨーンで議論され、10月には活動の一環として ASEAN における健康な高齢化とイノベーションに関わる研究事業の公募が行われ、その審査会がブルネイで、さらに ASEAN 各国の国別調整官 (Country Coordinator) の研修が千葉県成田市で開催されたところである。それぞれに筆者は参加した。これらの ACAI の活動は JICA (国際協力機構) も支援している。

戦略計画は、①健康とウェルビーイングの推進、②経済的包摶とデジタル機会の実現、③高齢者に優しい環境と気候変動への適応、④持続可能性と変革を柱に掲げ、HAAI (Healthy and Active Ageing Index) 等をベースに策定された AAAI (ASEAN Active Ageing Index) によりモニタリングを図りながら、今後5年間、IT/DX/AI を活用し ASEAN 諸国のアクティブエイジングに資する活動が行われる見込みである。

(林 玲子 記)

## 日本人口学会2025年度第1回東日本地域部会

2025年9月18日（木）午後及び9月19日（金）午前の2日間の日程で、東日本地域部会が、仙台市の宮城大学サテライトキャンパスにおいて、対面と Zoom によるオンラインのハイブリッド形式で開催された。地域部会は人口学会・年次大会と比べて萌芽的な課題や技術的な側面を含む報告についても 詳細な議論ができる場という性格があることから、今回の部会も各報告について20分の口頭報告時間と15分の質疑応答時間が確保されており、余裕をもったスケジュールでの開催となった。

今回の部会では、対面参加者による7報告とオンライン参加者による3報告とをあわせた10の口頭報告が行われた。社人研からは、藤井室長、小山室長と菅が対面参加による報告を行ったほか、清水部長がオンライン参加で報告を行った。そのほか、オンライン参加者の出席総数は正確に把握していないが、當時20名前後の参加があったようである。上述の通り最近の第1回東日本地域部会は報告時間に余裕をもったプログラム構成となっており、今回もすべての報告について技術的な側面も含む濃密な討論が行われたことが印象的であった。来年度以降も、十分な討論時間が確保され、各参加者が相互に刺激を受ける有意義なものとなることを期待したい。

なお、プログラムは日本人口学会のホームページ（「2025年度第1回東日本地域部会プログラムのお知らせ（第2報）」）に掲載されているため割愛する。

(菅 桂太 記)